

# 第25回北方圏国際シンポジウム

=公開講座=

## 「森から海の連環を考えるシンポジウム」 ～吸収の森もんべつから固定の森みなと区へ～



吸収の森  
“もんべつ”



固定の森  
“みなと区”

日時：平成22年2月23日（火） 午前10時～12時  
場所：紋別市文化会館1Fホール（紋別市幸町3丁目）

お問い合わせ：紋別市役所農政林務課

TEL：0158-24-2111（内線255・256）

# 第25回北方圏国際シンポジウム

平成22年2月23日（火）

午前10時から12時まで

紋別市文化会館1Fホール

## 『森から海の連環を考えるシンポジウム』

ー吸収の森もんべつから固定の森みなと区へー

オホーツク地域は、流氷が押し寄せ、知床を代表する生物多様性に富んだ地域である。現在では、温暖化の影響などによって流氷の着岸が減少するなど生物多様性に少なからず影響が現れ、生物資源の持続的保全・利用が危惧されている。これを繋ぐ、森から海の連携を地域全体で行っていく必要がある。

当流域では、生物多様性の基軸となる森林の管理を持続的に行っていくことを目標に、森林認証の取得を進め、日本一の森林認証の取得エリアになるなど、地域をはじめ、全国へ向けた環境貢献を行い、紋別市を起点に網走管内で拡大を見せている。

これらを受けて、本シンポジウムでは、当地域と都市部港区が制度設計を進める「CO2固定認証制度」の取り組みを紹介し、当地域と都市部との新たな環境共生の在り方について検討する。また、これらを山の環境的価値を川下から評価するための循環林利用を進め、木材利用においても付加価値化を進めるため、協議会と京都大学が共同開発する「地域間伐材による口の字フレーム」を利用した建築物の取り組みを通じ、新たな市場開拓の可能性を検討する。これらを通じ、生態系の物質的循環のエコシステムと“ヒト・モノ・カネ”による地域内の経済循環とをいかに統合させ、さらには都市部との連携による新たなエコシステムのあり方を議論する。

10:00 （司会進行） 紋別市森林認証材活用促進協議会  
事務局次長（オホーツク中央森林組合参与） 松本 正之

10:05 （挨拶） 紋別市長 宮川 良一  
（パネルディスカッション）

テーマ：「吸収の森もんべつから固定の森みなと区へ」

10:10 【コーディネーター】 東京農業大学 教授 黒瀧 秀久 氏

10:20 【パネラー】 京都大学 准教授 小林 広英 氏

「地域材による「口の字フレーム」建築物の実用化に向けて」

10:50 【パネラー】 東京都港区 環境課長 今福 芳明 氏

「港区CO2固定認証制度の展望」

11:20 【パネラー】 鈴木建設(株) 代表取締役 鈴木 賢広 氏

「紋別市森林認証の家第1号建設事例」

11:30 【意見交換】

11:55 「社会貢献賞」受賞の報告と謝意…ホラソティア団体「林-ツ<sup>やま</sup>森林づくりクラブ」

12:00 終了

☆主催 北方圏国際シンポジウム実行委員会、紋別市森林認証材活用促進協議会

☆後援 網走西部流域森林・林業活性化協議会、東京農業大学オホーツク実学センター